羽生郷土資料館だより

2013.1.15 vol.19

文殊院外観

霊麟大和尚

碗

徳川御三卿田安家と関わりのあった文殊院

文殊院は、羽生市中手子林に所在するお寺です。『新編武蔵風土記稿』によると、承応３年（１６５４）に、心鏡阿闍梨によって創建されました。本尊は文殊菩薩です。その後、霊麟和尚が同寺を中興しています。

本山は、東京都湯島にある霊雲寺で、国家安泰を祈祷する徳川将軍家の祈願寺として知られたお寺です。霊麟和尚が霊雲寺の住職を兼務したとき、文殊院と田安徳川家との関わりができたと伝えられています。田安徳川家から祈願を申し付けられ、同家の祈願寺となりました。

「什具書上帳」（文殊院蔵）によれば、安永２年（１７７３）に、田安徳川家の庭にあった愛染堂が、文殊院に供与されました。愛染堂は間口３間（約５m）、奥行７間（約１２m）という大きさで、文殊院の本堂として置かれ、中門と廻廊が施されました。愛染堂は焼失してしまいましたが、その荘厳な光景は「文殊院本堂焼失前見取図」（文殊院蔵）で偲ぶことができます。

また、文殊院は田安徳川家初代当主徳川宗武の正室・寶蓮院から深い帰依を受け、祈祷の御札等を献上していました。

祈願寺として田安徳川家の厚い信仰を受けていた文殊院でしたが、慶長４年（１８６８）に起こった打ちこわしにより、本堂や中門は焼失し、什具等も失われてしまいました。しかし、寺宝の一部はかろうじて被害を免れました。これらの寺宝は大切に守られ、いまに田安徳川家との関わりを伝えています。

※徳川御三卿

徳川将軍家の一族で、田安･一橋･清水の三家をいいます。田安徳川家は江戸幕府八代将軍吉宗の二男宗武を家祖としています。

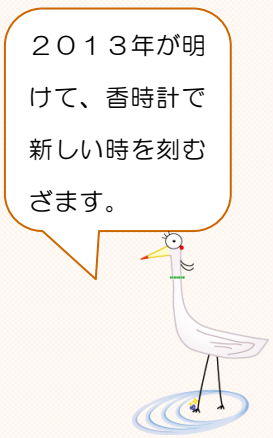
企画展「文殊院寺宝展」を開催します！

郷土資料館展示室において、企画展Ⅱ「徳川御三卿田安家の祈願寺　文殊院寺宝展」を開催します。「霊麟和尚の掛軸」や「六曲屏風」、「百布袋」「文殊院本堂焼失前見取り図」など、文殊院所蔵の資料を展示します。郷土のお寺に伝わる寺宝と文化をぜひご覧ください。

開催期間：２月３日（日）～３月３日（日）
開館時間：午前９時から午後５時まで
休 館 日：毎週火曜日と２月２８日（木）
入 館 料：無料
お問合せ：☎０４８（５６２）４３４１

しらさぎ婦人の秘密部屋探索

《香時計》



時計は、最初から現在用いられているような形をしていたわけではありません。「日時計」や「砂時計」といったように、さまざまなものを使って時間をはかり、時代と共に変化してきました。

香時計（こうどけい）は、香の燃え具合によって時間をはかるものです。別名「時香盤」とも言い、最初は儀礼の多い寺院で用いられていました。しかし、次第に一般にも使われるようになり、水田の配水のときなどに活躍したようです。当館所蔵の香時計は、縦横21㎝高さ25㎝の大きさです。